

第4回 イノベーション政策強化推進のための有識者会議「バイオ戦略」

1. 日時：令和2年1月27日（月）15:00～17:00

2. 場所：中央合同庁舎4号館 共用第1特別会議室

3. 出席者

(バイオ戦略有識者会議有識者)

| | | |
|----|-------|---|
| 座長 | 永山 治 | 一般財団法人バイオインダストリー協会代表理事理事長、 中外製薬株式会社代表取締役会長 |
| | 小林 憲明 | キリンホールディングス株式会社取締役常務執行役員 |
| | 永井 良三 | 自治医科大学学長 |
| | 藤田 朋宏 | 株式会社ちとせ研究所代表取締役CEO |
| | 吉澤 尚 | 弁護士法人漆間総合法律事務所副所長、弁護士・弁理士 |

(政府関係者)

| | |
|-------|--|
| 別府 充彦 | イノベーション推進室長代理 内閣府審議官 |
| 赤石 浩一 | イノベーション推進室イノベーション総括官 |
| 松尾 泰樹 | イノベーション推進室次長 内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当） |
| 濱野 幸一 | イノベーション推進室審議官 内閣官房内閣審議官 |
| 堀内 義規 | イノベーション推進室審議官 内閣府大臣官房審議官（科学技術・イノベーション担当） |
| 宮原 光穂 | 内閣官房健康・医療戦略室 参事官 |
| 山田 栄子 | 内閣官房情報通信技術（IT）総合戦略室参事官 |
| 渡邊 厚夫 | 内閣府知的財産戦略推進事務局次長 |
| 森田 剛史 | 消費者庁食品表示企画課保健表示室長 |
| 増子 宏 | 文部科学省大臣官房審議官 |
| 黒羽 真吾 | 厚生労働省大臣官房厚生科学課 研究企画官 |
| 青山 豊久 | 農林水産省農林水産技術会議事務局研究総務官 |
| 眞城 英一 | 林野庁木材産業課長 |
| 藤木 俊光 | 経済産業省商務・サービスグループ商務・サービス審議官 |
| 東川 直正 | 国土交通省大臣官房技術審議官 |
| 上田 康治 | 環境省大臣官房審議官 |

4. 議題

- (1) バイオ戦略2019の推進状況について
- (2) バイオ戦略2020において検討すべき事項について
- (3) 市場領域ロードマップについて
- (4) 国際バイオコミュニティ圏の形成について

5. 公開資料

資料1 バイオ戦略2019の推進

- 資料 2 バイオ戦略 2020 において検討すべき事項（有識者提言）
資料 2（参考） 有識者説明資料（吉澤氏）中長期的に留意すべき事項
資料 3 国際バイオコミュニティ圏の形成に向けた取組みについて

6. 議事要旨

(1) バイオ戦略 2019 の推進状況について

バイオ戦略 2019 の推進状況について、資料 1 に基づき事務局より説明した。

(2) バイオ戦略 2020 において検討すべき事項について

バイオ戦略 2020 において検討すべき事項について、資料 2 に基づき有識者より説明が行われた。

資料 2（参考）に基づき、吉澤構成員より補足の説明が行われた。

永井構成員より、以下の補足の意見があった。

- バイオの特徴というのは、複雑だということ。相互に依存している、フィードバックがかかる、細胞が増える、再生する、そういう複雑なシステムの産業を起こそうというわけだから、従来型のものづくりとは当然違う。
- フィードバックがかかる仕組みなので、相当情報を集めないとコントロールできない。そういう意味で、情報、横串を刺すとか、分野横断性とか、人材育成が必要。
- ミクロのゲノムなどの情報とマクロの社会を評価をする情報、あるいは評価システム、それを全部備えていくことが非常に重要。

(3) 市場領域ロードマップについて

市場領域ロードマップの検討状況について、内閣官房健康・医療戦略室、農林水産省及び経済産業省より説明が行われ、有識者等より以下の意見があった。

- 持続的一次生産システムに関しては、種苗や農産物の販売だけでなく、農業資材の販売や海外の農園への出資まで視野に入れることが必要。
- 農業に偏ったロードマップではなく、健康・ヘルスケアとリンクした食品のロードマップを描くことが必要。
- スマートシティ戦略に関しては、企業においてもカーボンニュートラルな木材を使ったまちづくりをテーマに掲げている。世界に情報を発信するという意味で、大きな目立つプロジェクトに林野庁として参画いただけることを期待している。
- 国土を保全していくために、年間何本ぐらいのスギを切る必要があるかというような、金額だけではなく循環型社会に向けての定量的な目標が重要。
- 生活習慣改善ヘルスケア、機能性食品、デジタルヘルスに関しては、未病から代謝疾患、臓器障害というところまでシームレスにつながっていくところを検討いただいていると思うが、更にシームレスに考えて、医療と食、さらに農業まで視点を当てて頂きたい。

(4) 国際バイオコミュニティ圏の形成について

国際バイオコミュニティ圏の形成について、資料 3 に基づき、文部科学省より説明が行われ、有識者等より以下の意見があった。

- 製品が出て黒字になるまでの間は資本金が必要となる。お金の流れを整理する必要がある。
- ライフサイエンスやバイオエコノミーを形成している他の都市と連携する際に、交通の便が問題となることがある。国交省との連携、あるいは、スマートシティ戦略の循環型社会の実証実験との連携なども検討いただきたい。
- バイオの分野は、AI やデジタルの世界とは、スタートアップの育て方や支援に必要なプレーヤーが異なる。バイオ戦略の専門家をそろえて、海外の都市と連携していく必要がある。

(5) その他

最後に総合討論が行われ、有識者等より以下の意見があった。

- データをどこに置くかが大切。各自が保有するデータベースを連携するという提言を行ったが、各データベースの中には恒久性が脆弱なものもある。データの安全性・恒久性が非常に重要。海外の状況等を参考にして考えるべき。
- バイオ以外の分野の意見を聞いて、その投資を呼び込む必要がある。
- バイオ戦略の認知度を高める必要がある。現在、各分野においてロードマップを作成中であるが、区切りのいい段階で産業界からの提案として、メディアを通じて発信していきたい。